

## 第15回核融合科学ネットワーク委員会議事メモ(案)

日時：平成13年3月30日(火)午後1時30分～5時20分

(LHD計画共同研究プラズマ分野成果報告会の後に開催)

場所：核融合科学研究所 研究 期棟4階大会議室(402号室)

参加者：飯尾、高村、花田、山中、犬竹、後藤、谷津、若谷、高瀬、上村、山崎、庄司(書記)

議題：

(0)本委員会における協議予定事項の確認(高村)

(1)前回の議事メモ(案)の確認(山崎)

(2)LHD計画共同研究関連

### ●LHD計画共同研究委員会報告(高村)

応募件数が少なかったため、各研究テーマに予算が多めに割り振られた。

競争があまりにもないのは問題である。本共同研究の存在を広めるための宣伝が必要である。

LHDに直接関連する研究の他に基礎的な共同研究も重要と考えている。応募者を更に拡大したい。

### ・コメント

開発された機器は必ずLHDに設置しなければならないと一部には思われているようである。(花田)

Q：計画共同研究申請書に研究カテゴリーの項目を入れてはどうか？(LHDに設置しなくとも良いカテゴリーの設置...)

A：科研費との相違がなくなってしまうので公式には困難である。(山崎)

どのような内容の研究テーマが認められるのかを示すガイドラインが必要である。また、募集する前に既にガイドラインを決定しておくことが重要である。(後藤)

平成13年度はこれらの点について考慮したい。広報の仕方が重要である。(高村)

LHDに設置するだけでなくファーストオーサーの論文となる物理研究ができれば、かなりの応募者が集まるのではないかと(山中)

核融合科学研究所の世話人を実質的に確保出来るかどうか大きなキーポイントである。(後藤)

### ●LHD計画共同研究報告の作成

報告書のフォーマットに関する説明(飯尾)

### ・コメント

Q：研究を行う側と予算を割り振った側の両方の評価が必要ではないか？(山中)

A：評価はあった方が良いと思われる。(高村)

出された評価をどのように生かすかが問題である。中間評価には意味があると思う。(花田)

評価ができるようにA4用紙一枚程度に研究成果・今後の課題などをまとめてもらってはどうか？自己評価の意味がある。(後藤)

問題点を抽出するために、研究成果に関する質疑応答集(IAEA論文を参考に...)を添付したらどうか？(高村)

□A4用紙一枚にまとめた質疑応答集・議論内容を追加・添付することになった。

(3)学術会議核融合専門委員会「核融合研究の新しいあり方小委員会(仮称)」委員の推薦について(山中)

第18期核融合専門委員会小委員会提案 核融合研究の新しい在り方検討小委員会(仮題)に関する説明

#### 第18期核融合専門委員会構成メンバーについての説明

メンバーは増員している。慣性核融合も含め、核融合科学研究所、原子力研究所などの参加、そしてそのバランスについてはネットワーク委員会で考慮の上決定することになっている。

プラズマ関連の研究者4名をこのネットワーク委員会で決定したい。

#### ・コメント

炉工ではITERを中心に議論したいとの意見が出ている。中心議題の選定が揺れている状況である。また、人材育成に関する議論が是非必要であるとの意見もあった。(犬竹)

学会会議でITERの議論を行っても意味がないとコメントした。核融合研究者内部の摩擦が表に出るようではいけない。(山中)

短期間で結論を出すためには、委員長の選定が重要である。(後藤)

「核融合開発研究に関する新しいあり方」とは何か？意味不明である。(谷津)

今後の方針は委員長の選定次第であると思われる。委員長に依存して選出される委員は異なってくる。(後藤)

様々な意見があるので、犬竹先生にケアをお願いしたい。若手教授、助教授を中心に選出してはどうか？(高村)

□伊藤公(NIFS)、高瀬(東大)、花田(九大)、田中和(阪大)の各氏を推薦することになった。

Q：各先生方の旅費の扱いはどうなるのか？(犬竹)

A：情報公開のからみもあってNIFSからの支給は難しい。NIFSでの共同研究の扱いであれば支払いが可能であろう。(山崎)

#### (4)平成12年度の活動の総括、各種活動の報告・情報交換について(高村)

今後、学術創成経費(仮称)をターゲットとして予算申請をしたいと考えている。この経費についての詳細な情報が欲しい。

今年度についてはITER計画検討会等に関してネットワークを通じて十分に活動出来なかったことが反省点である。

#### ・コメント

ネットワーク委員会規則の中の第8条に関して、各メンバーの任期を再確認・認識する必要がある。(谷津)

規則の再確認をお願いしたい。新たに第11条を追加している点以外は以前と変わらない。(山崎)

規則は委員内部でのみ配布されているに過ぎない。(山中)

規則は平成12年9月19日制定とし、各メンバーの任期は今年の4月1日からとしたい。(高村)

Q：ネットワーク委員以外の人に事前に配布・知らせる必要があるのではないかと？(山中)

A：平成13年度でのメンバー確認のところで、配布の必要性について再確認することにしたい。(高村)  
ネットワーク委員会の活動・規則を学会誌などに掲載すると良いと考える。(後藤)

#### (5)科学技術審議会・学術分科会に関連して

学術分科会では宇宙・加速器を含めての学術全般を中心に議論がなされている。その分科会の中に

核融合関連の部会をつくらうとしているので各位の支援をお願いしたい。詳細は別途報告の予定である。

原子力委員会との兼ね合いがあるのでしばらく静観の状況である。具体的な支援の方法については今後本島先生に問い合わせる予定。

#### (6)平成13年度の活動予定について(高村)

## 1. 核融合科学ネットワーク委員会委員の確認

### 1) 核融合研究拠点からの代表者の確認

浜田、伊藤、山中先生に関しては既に確認済みである。

□任期は今年の4月1日からとしたい。←承認された。

### 2) 規則第4条(2)~(5)の委員について

メンバーの数が少ないと思われる。

#### ・コメント

Q：伊藤先生はなぜ委員に選出されたのか？(停年との兼ね合いは.....)(若谷)

Q：大学以外からの増員(原研)も必要である。(これまではオブザーバーとしてであった...)(谷津)

Q：原研でもネットワークを造ろうとしているようである。(山中)

A：原研側にこちらのネットワークについて詳しく知らせる必要を感じている。原研の活動の詳細は不明である。(高村)

N I F S、原研の2つのネットワークが独立して存在している状況である。2つを統合して新しいネットワークを造ったらどうか？(高瀬)

核融合科学のネットワークであることを強調する必要がある。研究分野に基づいて原研のネットワークを取り込むべきである。(後藤)

まず第1段階として、オブザーバー的に原研の方を正式な委員にしたら良いと考える。(谷津)

原研の所長に参加を依頼したいと考えている。(高村)

多くの人に情報を配布する必要がある。電子メールの効果は大きい。(犬竹)

原研側は大学と共同研究する場(フォーラム?)を設けたい意向のようである。(高村)

原研の他にも重イオンビーム、プラズマシミュレーション等の人員が抜けている。

現在のネットワーク委員の方の再任は問題がないか調査する必要がある。(高村)

□プラズマ科学ネットワーク関連の委員の方(佐藤(徳)、菅井、河合先生)の再任の可否について上村先生が調査・確認することとなった。

定年後もメンバーとしてOKかどうか各先生方(曄道、井上先生)に聞いておく必要がある。(高村)

□本委員会に出席されている各委員の再任が確認された。また、曄道、井上両先生の再任については高村先生が確認することとなった。

Q：上村、本島、藤原の各氏を正式な委員としてはどうか？(谷津)

A：核融合研の研究者が多いと問題があるのではないかと考え、正式な委員とはしていない経緯がある。(山崎)

□ネットワーク委員会規則の第4条に以下の項目を追加することが決定された。

(6)その他、委員会が必要とする者

脚注に「改訂 平成13年3月30日」と追加

□各研究分野(慣性、重イオンビーム、シミュレーション)のメンバー補充(要請)を以下のようにすることに決まった。

慣性 大和田野(電総研)

中尾(九大)

重イオンビーム 小川(東工大)

シミュレーション 畑山(慶應大)

佐藤哲(N I F S)

その他 原研から2名程度

Q：核融合科学ネットワークの構成図はどのような経緯で作成されたのか？(高瀬)

A：プラズマ関連では研究の現状を示す構成図がないので作成した。比較的分かり易くできていると思う。  
(高村)

この後、構成図に関する議論がなされた。(構成図内の研究課題名称の選択・位置などについて...)

## 2. 科学研究費補助金基盤研究(C)(企画調査)に基づく活動(高村)

核融合科学ネットワーク構成の大分類に代表者を決め、新しい学術創生課題の作成・選定作業を進める。科研費が当たればこのような活動を行いたいと考えている。

### ・コメント

Q：日中(拠点)の話をしていただく必要がある。個別で進めているようなので情報が欲しい。(山中)

A：次回の会合で渡利先生に報告をお願いする予定である。(高村)

## 3. 核融合科学研究所共同研究委員会委員の選定(山崎)

運営協議会の下に核融合科学研究所共同研究委員会が設置されており、30名以内の委員で構成されている。

一般共同研究とLHD計画共同研究の採択に関してネットワークを通じての反映方法を検討したい。ネットワーク委員会で議論する必要がある。

これについては核融合科学研究所運営協議員会共同研究委員会規則の中で行うこととなる。今後議論を要する。

## 4. ITER関連の検討(高村)

ネットワークとしてITER関連の議論を今後も続ける必要がある。

物理R&Dの成果を個別テーマで議論・理解を深める場がほしい。

### ・コメント

トップダウン的ではなく、参加者の議論を喚起するようにはする必要がある。

Q：核融合科学研究所における共同研究のあり方に関する質問(山中)

Q：核融合科学研究所内における共同研究に対するサービスはどの程度まで期待できるのか？(後藤)

A：サービスの程度を決定するのが共同利用研究委員会である。(山崎)

Q：核融合コミュニティーの意見を反映させるために、どのような規則があるのか、共同利用研究委員会の目的は何か？(山中)

A：一般共同研究の予算を決定するのが共同利用研究委員会の役割である。(高村)

研究内容を方向付けるためには、運営協議会にアタックする必要がある。(谷津)

今後、共同利用研究委員会に関する議論を続ける予定である。(高村)

チェック&レビューなどを運営協議会で議論するべきである。(高村)

ネットワーク委員会の情報などを電子メールでどこまで配布するべきか非常に分かりづらい状況になっている。どこまで情報を流すべきか決定したい。(山崎)

電子メールによる情報配信に関する議論を今後も続けていく。(高村)

ITERにおける物理R&D、トカマクプラズマの物理について、アメリカの研究者を取り込むための議論が必要である。(若谷)

平成13年度における活動予定について次回会合までに考えるべきである。独立法人化によって大学の研究が衰退していく可能性がある。

研究の戦略性を持たなければいけない状況下にある。(後藤)

この種の議論を次回会合に行いたい。各大学における情勢を調査しておく必要がある。(高村)

□次回会合の日時は電子メール等による希望調査の結果を元に決定することになった。

会合終了 (17:13)

配布資料：

1. 平成 13 年 3 月 30 日 核融合科学ネットワーク委員会協議事項
2. 第 14 回核融合科学ネットワーク委員会議事メモ(案)
3. L H D 計画共同研究プラズマ分野平成 12 年度終了課題報告 成果報告会リスト
4. L H D 計画共同研究(プラズマ分野)平成 12 年度終了課題研究成果報告書ご提出のお願い
5. L H D 計画共同研究一覧表(平成 13 年度研究費配分案)
6. 第 18 期核融合専門委員会小委員会提案 核融合研究の新しい在り方検討小委員会(仮題)
7. 核融合科学ネットワーク委員会規則(案)
8. 核融合科学ネットワーク委員会委員名簿
9. 核融合科学ネットワーク構成図
10. 核融合科学研究所運営協議員会共同研究委員会規則
11. L H D 計画共同研究成果報告会、核融合科学ネットワーク委員会出欠リスト
12. 東鉄バス運行時刻表(H13 年 3 月 25 日 改正)